

高等学校家庭科 指導資料



文部科学省

まえがき

近年、核家族化や都市化の進行といった社会やライフスタイルの変容を背景に、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。このような中であって、家庭科教育では、生涯の見通しをもって、よりよい生活を追求する実践力や、生活における自立とともに、他者と共に生きるための知識と技術の習得、食育や消費者教育など社会の変化に対応できる力の育成などが求められています。

このような課題を踏まえ、新しい学習指導要領「家庭」については、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、保育、消費等に関わる知識や技術を習得するとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を重視して改訂を行いました。

具体的には、高等学校の共通教科「家庭」の科目について、従前の「生活技術」を改編し、新しく「生活デザイン」を設け、実験・実習等の体験学習を重視し、衣食住の生活文化に関心をもたせ、生涯を通して健康や環境に配慮した生活を主体的に営むことができる科目としました。また、「家庭基礎」、「家庭総合」についても、人の一生を見通しながら自立して生活する能力や異なる世代とかかわり共に生きる力を育てることなどを重視して改善を行いました。

本書は、このような新しい学習指導要領を踏まえた家庭科の指導を行うに当たって、参考となる考え方や図表・写真・ワークシート等の資料などを収録しました。

各教育委員会及び各学校において、本書が積極的に活用され、家庭科教育の一層の充実が図られることを期待しています。

最後に、本書の作成に当たり、多大なご協力をいただいた協力者ほか関係の方々に、心から感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

文部科学省初等中等教育局長
布 村 幸 彦

資料目次

第1章 人の一生と家族・家庭及び福祉	1
第1節 異世代との触れ合い体験学習の意義	2
第2節 体験学習を始める前の準備と指導	5
第3節 「子どもとの触れ合い」体験学習の内容	8
第4節 「高齢者とのコミュニケーション」体験学習の内容	11
第2章 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立	15
第1節 消費生活と生涯を見通した経済の計画	16
第2節 ライフスタイルと環境	47
第3節 生涯の経済計画とリスク管理	59
第3章 食生活の設計と創造	75
第1節 家族の健康と食事	76
第2節 おいしさの科学と調理	88
第3節 食生活と環境	115
第4節 食生活のデザインと実践	126
第4章 衣生活の設計と創造	135
第1節 装いの科学と表現	136
第2節 被服の構成と製作	142
第3節 衣生活の管理と環境	167
第4節 衣生活のデザインと実践	175
第5章 住生活の設計と創造	181
第1節 住居の機能	182
第2節 家族のライフステージと住居	192
第3節 快適さの科学と住空間の設計	193
第4節 住居と住環境	197
第5節 住生活のデザインと実践	201
参考資料	211